



“ガス窯作りのプロ集団・大築窯炉工業”の

陶芸家と窯屋を結び超アナログ情報誌

2009・3月号

月刊 窯ナビ

必ず良いことがある人のために送る！
DAICHIKUのお得意様向けニュースレター

ウラ面も情報満載

【発行日】2009年3月30日 【発行人】(株)大築窯炉工業 谷口浩司
〒309-1611 茨城県笠間市笠間2192-5 TEL0296-72-1444 【ホームページ】<http://www.daichiku.jp/>

上野(うわの)窯 上野猛さん 「いつも新しい手法を考えるのが好きなんです」



【上野猛さん略歴】

1950 岩手県二戸市生まれ
1975 益子にて作陶を始める
1978 現在地に築窯独立
1996 益子陶芸展入選
以後 共販センター
笠間きらら館などにて作陶展

焼締、青瓷、天目釉などを主に創作しています

【連絡先】

栃木県芳賀郡益子町上大羽2222
0285-72-5675



秋元：やきものを志したきっかけは？

上野：偶然入ったギャラリーで、京都の清水卯一さんの展示会を見て感銘を受けました。青磁の作品がとても美しかったんです。その時が仕事を陶芸に選んだ出発点です。

秋元：益子で陶芸家としてやってきて印象的な出来事はありましたか？

上野：とにかく30年も経ってしまったとは思えないくらい、あっという間でしたね。益子ならではの作品造りも多かったですが、反面、いろいろな土や釉薬を探して試験して、表現の探求も惜しみなくやってきたつもりです。好きだったんでしょうね。でもこれからは、一つのことをもっと掘り下げてゆこうと思っています。今一番したいことは原点である「青磁」です。

秋元：お客様からどんなことを言われると嬉しいですか？

上野：「こんな見たことない！」と言われたときです。いつも新しい手法を考えるのが好きなんです。

秋元：どんなときにやりがいを感じますか？

上野：おもしろい手法に出会ったときです。

秋元：最近一番嬉しかったことは？

上野：ガス窯をメンテナンスしたことです。直したことで「また挑戦する気持ち」が出てきました。景気もきびしいので直すことは悩みましたが、メインの窯を直して良かったと思っています。チャレンジ精神を持ち続けてやっていきたいですね。

秋元：ご自分の好きなどころ、嫌いなどころは？

上野：長所かどうかは分かりませんが、人に求めたり干渉したりしないことかな。短所は、自分を素直に出すことが下手ですね。感情をあまりださずにきたので、これからはもう少し感情を出していこうかな。

秋元：今年の目標、やりたいことは何ですか？

上野：ガス窯をメンテナンスして窯の性格が少し変わったと思うので、早くクセをつかんで使いこなしていきたいです。

秋元：当社のメンテナンスをお選びになった理由は？

上野：修理は3年迷っていましたが、ちょうど良いタイミングでDMが届いて・・・。知人でもダイチクの窯を持っている人もいましたし。

秋元：ダイチクのイメージは？

上野：真面目でコツコツやっている感じがしました。メンテ後はまだ素焼しかしていませんが、順調に焼けています。窯が生まれ変わったおかげでまたやる気ができました。ありがとうございました。

(敬称は略させていただきます 聞き手は、秋元智香でした)

うれしい！楽しい！大好き！ダイチク！メッセージ！

上野さんは心の奥に秘めた情熱があり、常に追い求めて行きたいという印象を受けました。私達も見習いたいと思います。

【ガス窯の修理について】他社の窯を修理すると発見があって勉強になります。小さなことでも自分たちの窯作りにフィードバックして品質向上に努めたいと思います。窯は常温から1200以上の高温まで加熱されたり冷やされたり連続です。それを何十年も繰返すと当然傷みもします。燃費の点でも期待できません。世間では、「エコ替え」などと声高々に言われていますが、窯はそう簡単にはいきません。傷んだ場所を早めに交換、修理すればまだまだ長く使えます。また、部品を再利用して新しいものもできます。「どうかな？」と思ったら是非ご相談ください。

ユーザーさんの個展・展示会・情報募集

当社ではユーザの個展・展示会の情報を募集しています。ダイレクトメール(DM)などの案内書ができましたら、弊社までお送りください。当ニュースレター「月刊・窯ナビ」やホームページ上でご紹介させていただきます。グループ展や小さなイベントでもOKです。どしどしお寄せください。費用は一切かかりません。

ユーザーさんの個展情報



新進作家陶芸展2009
4.23(木)～5.31(日)
笠間工芸の丘 クラフトギャラリー1・E

新進作家陶芸展/笠間工芸の丘

2009.4.23(木)～5.31(日) 10:00am～5:00pm
東齋織 飯島玲子 磯部祐介 折笠秀樹 金子奈央 栗林礼子 小坂裕美 笹本愛 斉藤勝 志々木茂 清水一博 鈴木美汐 須藤訓史 田中みちこ 玉木一将 中野明彦 蓮見かおり 原田謙 古木博子 前沢陽彦 町田美幸



岡本 芳久 作陶展

岡本 芳久 作陶展

2009.4.8(水)～4.14(月)最終日18:30開場
松屋銀座 7階 アートスポット



阿部 誠作陶展

2009年4月10日(金)まで開催中 回廊ギャラリー門



Koji Kaga EXHIBITION

ギャラリー 舞台

笠間市笠間2518-8
月曜日定休(祝日は日)
11am～6pm
2009.4.7(TUE)～26(SUN)

なるほど！釉陶里炉・学習帳 名前の由来・・・「釉薬」

「釉薬」と漢字で書いて「ゆうやく」または「うわぐすり」と読みます。時に、「釉」の一文字でも「ゆう」「くすり」とか「うわぐすり」と読んだりもします。ではこの「釉」という時の意味は何でしょうか？「釉」という漢字の意味は油のような光沢があることから、昔は「油」という字を用いていましたが、この字は食物をあらわし、編である“さんずい”は水を表す言葉なので適切でないとのこと。そこでうわぐすりは光彩を示すものであることから彩の編である「采」をとって「釉」としたとされています。陶磁器にかかっている釉とは、素地の表面に溶けて融着した薄いガラス質のもので、化学的性質などは一般のガラスと良く似ていますが、ガラスと違う点は基本材料で、釉にはアルミナが多く含まれているところです。また、ガラスは透明ですが、釉は組成を変えることにより透明、乳濁、マット、結晶などになり、複雑な構造になっています。

施釉する目的は、

- 1、素地を液体や気体に対して不透過性にする。
- 2、素地の表面を覆い皮膜の役目をし、美感を与え、同時に強度を増すこと。
- 3、素地が汚れるのを防ぎ、汚れがついても洗剤などで簡単に洗浄することができること。
- 4、素地と反応して、釉と素地を一体にすること。

とされています。

(参考文献：図解 工芸用陶磁器)

陶芸羅針盤 ガスバーナーの逆火について

ガス窯に点火後、バーナーから「コロコロコロコロ・・・」という音が出て火口に火が着いてないことがあります。この現象を「逆火(ぎゃっか)」といいます。バーナーの炎は供給される燃料(ガス)と炎の燃焼速度が合っているときに正常に燃えます。逆火は ガスの供給量が少ない場合、または、 ガスの量に対して空気の供給が多すぎて燃焼ガスが薄くなってしまったときに、レギュレーター内のガス噴出し口(ノズル)付近で燃えることを言います。

対策(1) ガス圧を上げる

点火当初のガス圧が 3Kpa 以下であると発生する可能性があります。点火当初は 3Kpa 以上にしてください。当社では 4Kpa 以上を推奨しています。

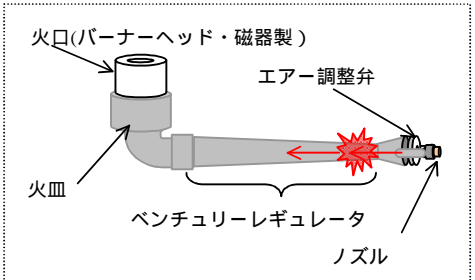
対策(2) バーナーを掃除する

バーナーのレギュレーターの中や火口に異物があると、ガスの流れが悪くなり逆火が発生する可能性があります。火口などは常にきれいな状態にしておくことをお勧めします。

その他の原因として、ガス窯は 250 ～ 300 になると煙突が温まり排気が始まります。排気が始まるとその分空気が窯に供給されることを意味します。それはバーナー部分からということになります。つまり、250 以上になると状況によっては空気過剰になることがあり、の状態になって逆火をおこします。炉内が 300 になるくらいまでは逆火を起こさないように見てあげてあげる必要があります。逆火になってしまったら、まず、そのバーナーのガスを止めます。その後、ガス圧を 1Kpa 以上あげてから再度点火してください。その時、レギュレーターが熱くなっているときは冷めるまで 2～3 分待って点火してください。急いでいる場合は、濡れ雑巾などをあてて冷やしてあげることも良い方法です(やけどに注意してください)。

バーナーはガス窯の心臓部ともいえる場所です。これがしっかりしていないと良い焼きものはできません。また、危険でもあります。使用方法に注意し、メンテナンスに心がけ安全にご使用ください。

【ベンチュリーバーナーの逆火】



編集後記「あとかんげん」

今年は例年より早く桜が咲き始め、天気が安定したこともあって長く花が楽しめています。私が卒業した小学校前の桜並木も満開です。一週間ほど前のこと、益子の食堂でお昼に週刊誌を見ていました。そこにこういう見出し「走れ！トロイカ学習帳」。妙に語呂が良くておもしろかったので「なるほど！釉陶里炉(ユトリロ)学習帳」としてパクらせてもらいました。自分でも!!!です。ちなみに「陶芸羅針盤」はNHKの「経済羅針盤」からです。さて、最近、辰砂釉の話を書くことが多く、調べてみると、登場人物だけでも宇野仁松氏、その後子息の宇野宗太郎氏、内藤匡氏、万有引力のニュートン、果てはエジプトの女王クレオパトラまで出てきました。中国では明代が終わると辰砂の技法が伝承されませんでした。そこで清の時代、景德鎮で「朗」という人物が明の時代の焼きものを模倣し、記録を残したそうです。その中に、辰砂は下釉に銅の入った釉薬をかけ、上釉に錫の入った釉薬をかけるという二重掛けの手法を残し、明の時代にできた辰砂の再現に成功したということです。21世紀、陶芸の本に当たり前のよう書いてある実験結果、実は何百年も前に先人がやっていたかと思うとその偉大さをあらためて感じざるをえません。パソコンもインターネットもなく、本も貴重な時代、一つのことを極めるのにはたいへんな時間と労力が必要だったと思います。